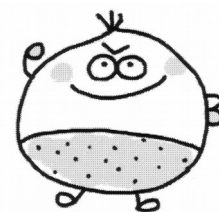


HDM推進会（第 25回）／ごみゼロネット推進会（第 47回）議事録

開催日： 2012年(H24年)6月 20日(水) 10:00～12:00

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： (フォレスト社) 竹井／平林、加藤、大橋、杉本、川村、桐生(作成)



議題：

1. 最近の事情説明(加藤・杉本)

- H24年度第2回ごみ特の説明。席上、ごみ対策課からHDM推進会と実証試験について合意ができたこと「これによりHDM実証試験は発展的解消へ向う」との発言があった。
- ダイナックス社が作成した「小金井市ごみ減量施策提案評価一覧」が披露された。「2.生ごみ処理のあり方」の項で「臭気の問題」「密閉施設での脱臭効果の現状」「処理費用」「堆肥化以外の資源化手法」の評価に「取り組み易さ」「低価格での実現」で全てバツの評価となっている。極めて偏った恣意的な評価と思わざるを得ない。

2. 生ごみ処理に関する最近の事情と考え方(竹井)

- 久喜・宮代も拡大の相談に入っている。
- 熊谷清掃社は今年度中に10～20トンの大規模HDM施設の建設を行う。密閉建屋内に設置し、脱臭して排気する方式である。
- 15、6年前に業務用の生ごみ処理機が全盛期となったことがあった。しかし、現在ではバイオ式は残っておらず、乾燥式が残っている。原因は生ごみ処理量を過負荷にした時にうまく行かなかったのが大部分の理由である。ゼロワンダーがうまく行ったのは、少なく入れて、酷くなる前に定期的に全部取り出して他で処理することで事業として成功させている。ゼロワンダーでも50kg/日入れて臭っているケースがある。
- フォレスト社ではHDMを機械化する場合の装置として各社のものを調査し、ゼロワンダーが好適との判断を下した。他社の機械は生ごみが粘って塊りになるのを恐れて、攪拌翼を小さくしているが、ゼロワンダーは反応槽一杯の攪拌翼で悪臭が出るデッドポイントができにくい構造である。但し、メーカーがHDMモードで使用する場合の性能が保障できないので、ゼロワンダーの名称は使わないでくれとの条件を出されている。
- 分別収集が決め手である。先日会った時、久喜の自治会長が、「紙おむつとたわしが異物として混入していた」「私が永年皆に説いてきたのは何だったんだろう」としょげていた。
- (その他にも参考になる情報をいただき、次の「HDM実証試験に関する提案」に活かした)

以上

次回打合せ：7月11日(水) 10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ
行政との次回打合せ：7月5日(木) 午後、場所未定/その1時間前に同じ場所で我々の事前打合せを行いたい。

HDM実証試験に関する提案

提案の趣旨

今般、ごみ対策課とHDM推進会の間で、大規模集合住宅等での地域処理をターゲットとした日量~~10~~ kgの小型生ごみ処理装置(ゼロワンダー FT6D)を、HDM方式の運転条件で実証試験することで合意が成立した。

この文書は、当該実証試験に関するHDM推進会からの提案書である。この提案書をたたき台として、HDM導入検討会として実証試験の具体的内容を確定したい。

1. 1日処理能力を17kg(暫定値)とする

この能力は(有)ジュンカンが公称する50kg/日の1/3でしかない。ジュンカンはこの装置を生ごみのみを攪拌する堆肥化装置として使用するため、反応槽容積の利用効率が高いHDM方式は木材チップを担体とする好気性消滅型の微生物処理法であり、担体と生ごみの設計重量比~~60~~対1であるため、反応槽容積の利用効率が低い。

ゼロワンダーFT6Dのような小型機械化方式では、反応槽の利用効率は堆肥化方式や乾燥方式が明らかに勝っている。だが、それらの方式でHDMが得意とする能力1~20ト/日で処理費用2~3万円/トの大型消滅処理装置を実用化することはできない。得意領域が全く違う処理方式を無理に比較しているのである。

「設置場所がない」ために集合住宅等を対象とする分散型生ごみ処理を実用化し、それはHDM実証試験を相乗りさせる」のが今回の行政とHDM推進会の合意である。この程度の処理能力であれば好適な処理方式は他にも多数にあることを承知の上で、行うことになったHDM実証試験である。

フォレスト社の試算では、「処理費用はおよそ万円/ト」になる。(小金井市がアグリクリエイイト社に委託しているのは生ごみ換算20万円/ト) 議会等で「装置の規模の割に処理能力が低い」「処理費用が割高」との意見は必ず出る。行政側で万全の対応をお願いしたい。

1日処理能力は暫定値であり、フォレスト社からは何れ推奨値が提出されるが、その値を超えて生ごみを投入しないようルール化をお願いする。(オーバー分は可燃ごみに出す)

2. 装置メーカーはレンタルを望まず、買取を希望している

既にビックリドンキーを始め数百台を納入済みであり、レンタルで様子見をしていただく段階ではないと業者は主張している。フォレスト社もこのような小型機械化方式を需要展開する予定はない。一方、導入する団体としては実証済みでない処理装置を買い取りたくない。難しい交渉になりそうだ。

3. 装置の設置場所は市の所有地としたい

過去2年間に1ト/日から始まって200kg/日まで処理能力を落として設置場所を探してきたが、遂に適地は浮かばなかった。ゼロワンダーFT6Dならどこでも置けるということで機種選定された経緯を踏まえ、説明会や公募等の手間(時間)が必要ない市の所有地(中間処理場等)で実証試験をすることをお願いしたい。

4. 処理対象生ごみは学校給食や学校持込生ごみ処理のものを流用できないか

「生ごみ処理は分別収集に全てがかかる」といわれる。だが、今回HDM実証試験では地域分別収集の対象になるほどの量に到っていない。本来の目的は1日1ト程度の大量の分別収集の実証を含むものであった。残念であるが、20kg/日程度の生ごみは意識の高い人たちからの生ごみ提供で調達可能である。この程度の量であれば、現在、学校を拠点に行っている生ごみ処理の中から融通してもらおうのが筋であろう。地域分別収集は別の機会に譲りたい。

5. 臭気に関する測定

密閉反応槽で排気は活性炭ろ過であるため、運転中の臭気逸散はあり得ない。投入口開閉時の臭気が問題になる。専門家が推奨するのは、臭気個別物質を個別定量化できる吸引式である(価格3万円程度、検体カセット1回分3000円程度)

大気中の空気以外の分子の量を測定するポータブル臭気計もあるが30万円程度と高価であり、分子の特定ができないため、使用法に限界がある。

6. 運転時の記録項目

平常運転時 : 生ごみ投入量 / 生ごみの性状 / 投入時間 / 大気温度・湿度 / 攪拌サイクル / 臭気データ / 運転中の温度変化 / 内容物の容積変化 / 開始時と一定時間経過後の重量変化、等

投入量を変化させた運転時 : 20・25・30・35 kg / 日と処理量を変化させて、内容物の性状・容積・温度・粘度等 / 臭気データ等の変化を記録する。

7. 実証試験に関わる人物

設備運営責任者 : 技術者としての基礎があり、生ごみ処理に造詣ある人物。シルバー人材センターに適格者がいると思われる。

実証試験のモニター : HDM推進会のメンバーが輪番で試験に立会い、実証試験の分析と評価と報告書の作成を行う。東京農工大学の有識者の指導と評価を受ける予定。

8. 次のステップ

H25年度には、二枚橋焼却場跡地の小金井市分が引き渡される。

ここに1ト/日級の実証試験用HDM施設を設置して、①大規模分別収集を伴う、②HDM生ごみ処理実証試験を行いたい。

以上